

花きの栽培技術

高野槇の栽培

JAグループ和歌山農業振興センター 技術参与 本田孝志

高野槇は「コウヤマキ科の針葉樹で、紀伊半島を始め、四国や木曾地域に多く生育しています。本県では高野山の周辺が栽培の中心となっています。真言宗のお寺や家庭では仏前の切り枝として広く使われており、真夏の高温や氷が張るような低温でも葉が長持ちするため、人気の高い切り枝です。

1 適地

上手に栽培するためには、適地に植えることが大切で、ポイントは次の2つです。

◎涼しい山間地で栽培する

◎排水の良い場所に植える

気温や湿度の高い地域で栽培すると定植後に枯れたり、活着しても節間が間伸びした切り枝となります。チャアナタケモドキ菌による枝枯れが発生することもあります。

また、高野槇は根が浅いため、耕土が浅く排水の悪い圃場に植えると生育が悪く、強風で倒伏することもあるため注意が必要です。

2 育苗

高野槇は、マツボックリのような実がなります。この中の種を播種して育



苗します。涼しい場所で山土などへ播種しますが、冬に種まきをしてから発芽まで6か月以上かかります。1年で葉が1節発生するため、3年でも3節しかなく、定植苗にするためには8年程かかります。

挿し木でも増殖できますが、発根までに長い日数を要し、発根率も良くないため、高度な技術を必要とします。

さし床は小粒の赤玉土と鹿沼土を混合したものを使い、冬の寒い時期に長さ20cm程度のさし穂を挿し木をします。寒冷紗の下で管理して発根させます。発根後に植え替えて生育を促進しますが、苗ができるまで1年以上かかります。

3 定植

先ほども説明しましたが、排水の良い場所に定植します。耕土が浅い場合

は、重機を用いて土壌を深くしておくようにします。

春か秋の気温が低い季節に、樹高が30cm程度の苗を株間2～3mで植え付けます。高野槇は生育が遅く、活着まで日数がかかるため、夏の高温時など灌水するようにします。株が小さいうちは、野ウサギやシカなどの被害に注意します。

なお、樹高が高くなり、樹の影が周囲の圃場や家屋などに影響しないような場所に植えるように注意してください。

4 栽培管理

株が大きくなってくれば、大変丈夫な植物なので、適地に植えた場合は病虫害がほとんど発生しません。ただし、生育が遅いため、切り枝できるまで定植後8年程度かかります。

施肥は年に1回程度、春に株から少し離れたところに、緩効性の肥料を少量施用する程度で十分です。

高野槇は本来20m以上にも育つ高木性樹木です。大きくなりすぎると



収穫作業が大変になるため、高さ4mになった頃に、3m程度になるよう枝の先端を止めます。

風通りが悪くなると葉が黒くなる「すす病」が発生するため、収穫をかねて、樹体を適切な大きさに保ちます。



5 収穫

枝の状態を見ながら切り枝を行います。樹高が高くなった場合は、はしごをかけて収穫しますが、傾斜地での栽培が多いので、転落事故には十分注意します。植栽後30年以上経過した成木で1株当たり年間40本、10アール当たり5000本程度収穫できます。収穫後はしっかりと時間をかけて水揚げを行い、下葉を除去して出荷します。

高野槇はお盆や彼岸はもとより、一年中需要のある品目です。中山間地域の省力品目として取り組んでみたいものです。